

令和5年度第1回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和5年8月29日（火）午前10時～午前11時

場所：富山県民会館 613 号室

議題：（1）本県における手話関連施策の状況について

（2）第5次富山県障害者計画の策定について

（3）その他

委員からの主な意見

（1）手話関連施策について

- ・ 観光分野における手話の普及について、内容を充実させて欲しい。手話とは異なるが、他県のホテルに宿泊した際にテレビに字幕が表示されないように設定されていた。
- ・ 情報バリアフリーについて、情報アクセシビリティのように、誰でも情報が得られるといった内容を計画に盛り込むことが必要なのではないか。
- ・ デフリンピックに向けて選手を養成できるように環境を整備していただきたい。
- ・ 合理的配慮の部分で、当事者の声をよく聞き、施策に盛り込んでほしい。
- ・ なかなか声を上げられない当事者もいるので、行政側が積極的に進んで考えて対処していくようにすべきではないか。
- ・ 出前講座について、市町村の教育機関でもPRしていただきたい。
- ・ 聴覚障害者の災害対策について、避難先で情報が入りづらいため、手話通訳者の配置等、個別の支援体制を整備し、防災対策に取り組んでいただきたい。
- ・ 高齢の聴覚障害者の支援をしている介護施設が1ヶ所（NPO 法人）しかない状況。聴覚障害者の高齢化も進んでおり、支援機関を増やすなど、高齢の聴覚障害者への支援策を計画に盛り込んでいただきたい。
- ・ 難聴児支援の協議会が今年度中に設置される方向と聞いている。ライフステージに応じ、切れ目のない支援が必要であり、聞こえない/聞こえにくい子どもなど、当事者の相互の交流や相談、情報交換をすることのできる機会を設けると良いのではないか。また、その繋がりを意識できるコーディネーターも養成しなくてはいけない。

（2）手話通訳者について（健康や雇用等）

- ・ 手話通訳者での健康診断を受ける人が少ない。健康に対する関心が低い状況であり、県障害福祉課からも働きかけをお願いしたい。
- ・ 手話通訳者のほとんどは非正規雇用。社会全体が通訳者の専門性を正しく評価できていない。

令和5年度第2回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和5年12月1日（金）午後3時～午後4時30分

場所：富山県庁4階大会議室

議題：（１）第5次富山県障害者計画及び富山県第7期障害福祉計画（第3期障害児福祉計画）における手話の普及等に関する施策（素案）について
（２）その他

委員からの主な意見

（２）聴覚障害（児）者への支援について

- ・ 字幕や手話がまだ付けられていないニュースがあるので、安心して生活が送れるよう、是非放送局に働きかけていただきたい。
- ・ 避難所での情報提供として、デジタルサイネージの設置をご検討いただきたい。
- ・ 災害が発生した時のために、地域の聴覚障害者と手話奉仕員養成研修受講者をマッチすることで、情報支援をできるようにしてはどうか。
- ・ 当事者が「選択」できるようにライフステージやライフスタイルに応じた支援ができる社会を目指すべき。

（３）難聴児支援について

- ・ 難聴児の早期発見、早期支援早期療育のため、難聴児支援協議会の委員に当事者団体も入れていただきたい。
- ・ ライフステージに合わせて、関係機関と連携をとりながら切れ目のない支援をしていただきたい。

（３）手話通訳者について（健康や雇用等）

- ・ 現在、県専任手話通訳者は非常勤となっているが、身分保障のため、正職員化としての配置をご検討いただきたい。
- ・ 手話通訳者の健診について、県内に専門医がいないことから県外の医師に依頼している状況。手話通訳者の健康維持のため、県内に専門医がいれば非常に助かる。
- ・ 手話通訳者養成研修や試験、手話奉仕員の受講者を増やすために、市町村と連携して手話に関わる方が集まる場を設けてはどうか。

（４）手話の普及について

- ・ 学校でも手話の普及や理解のため、簡単なコミュニケーションが身に付けられるように、テキストを作成して先生方や生徒が学べるようにしていただきたい。

令和５年度第３回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和６年２月２７日（火）午後３時～午後４時３０分

場所：富山県庁４階大会議室

議題：（１）第５次富山県障害者計画及び富山県第７期障害福祉計画（第３期障害児福祉計画）の計画案における手話の普及等に関する施策について
（２）その他（災害発生時における対応について）

委員からの主な意見

（４）手話通訳者について

- ・ 手話は言語であること、手話通訳者の専門性、養成の大変さを市町村にも理解いただき、手話通訳者の報酬を全国平均まで増やすように働きかけていただきたい。
- ・ 手話通訳者のやりがい社会に広がっていけば目指す人が増えるのではないかなと思う。

（５）難聴児支援について

- ・ 会議メンバーとして参加する当事者も支援の対象という考え方もあるが、会議に参加するなどそうした活動に参加することを通じて保護者や周りの人たちが難聴についてお互いに理解し、積極的に生きていくことが大切だと思う。

（３）災害発生時における対応について

- ・ 聞こえない人は状況把握が難しい。手話通訳者や手話奉仕員だけでなく、近所の人にもどこに聞こえない方がいるということを知っていただくことが大事だと思う。
- ・ 身近な町内会等小地域の単位での防災の取り組みは非常に大事。
- ・ 聴覚障害者協会の会員は連絡ツールを活用して安否確認ができるが、会員でない方は難しい。どのように繋がっていくかという点も大事ではないかなと思う。
- ・ 避難しやすい避難所を作ることが大切。
- ・ 避難所での情報支援が重要であり、ニュースでも手話や字幕を付けることが課題ではないかなと思う。
- ・ 聴覚障害に限らず、避難が困難な「災害弱者」も同様に様々な課題があると感じている。